

一主婦からの新発田市政通

皆様これで良いですか

発行者 青木三枝子（市政を考える会）

新発田市御幸町 3-1-21

TEL 0254-26-8334

24号

平成 26 年 7 月 1 日 第 24 号

た。体制を整えた上で、トップセールスをして欲しいものです。新発田市には有名タレントに認証されたお菓子より、昔から市民に愛されているお菓子があります。しかし、そのようなお菓子は大量生産できません。私は親戚、友人達に、このお菓子をお土産として勧めています。

⑤ 駅前複合施設ワークショップについて

現在行われている駅前複合施設管理運営面に関するワークショップが、本当にまちづくり条例に合致し、市民と行政が対等な立場で研究し、議論する場になっているかについての質問がありました。しかし、市長からの明確な回答はありませんでした。既に通信でも述べているように、そのような場となっていません。7月1日第2回目のワークショップも、アイデア募集の会になるようです。

⑥ 新庁舎建設費用増大

補正予算において約2千万円が増額されました。今後も予算は増える事でしょう。駅前複合施設も今後、約32億円では建設できなくなるでしょう。一般会計予算全体が増大し続けています。

⑦ 集団的自衛権容認に関する意見書採択

「現憲法下での集団的自衛権の行使は許されない」との憲法解釈を遵守すると共に集団的自衛権をめぐる憲法解釈については、国民的議論と合意形成なしに変更されないようにとの意見書が提出され、一派の反対のみ、賛成多数で採択されました。しかし、この地方の声は中央には届きません。ある党は、拡大解釈されまいよう頑張ったと述べましたが、これまでのこの党の主張からすれば当然のことです。今後、拡大解釈され歯止めが利かなくなるのには目に見えています。平和と国民の命を守るというこの党がいくら弁明しようと信じる事ができません。

⑧ 議場に響く教育勅語必要論

教育勅語を読み上げ、道徳教育の副読本にするようにとのある議員の声を議場で聞いた時、耳を疑いました。別の議員から手渡された教育勅語の内容をもう一度読みました。そこには、国のために命を捧げるという意味の文章があります。再び日本は戦前に戻り、同じ過ちを繰り返すのかと暗い気持ちになりました。

(以上の内容は議事録でご確認ください。)

3 エフエムしばたの経営について

議会報告会において、エフエムしばたが黒字化する予定だと述べた議員に対して、その根拠となる数字があれば示して欲しいと依頼していました。その後、その議員より、紫雲寺風力発電と勘違いしていた事、エフエムしばたは黒字化の年次計画表を作成していなかったと謝罪されました。私には今後もエフエムしばたが黒字化できるとは思えません。

1 破れたまま飾られている坪川氏の写真

現図書館玄関を入った奥に、坪川記念室があります。そこには、坪川氏の写真が飾られています。その写真をみつつ、駅前複合施設の中に図書館が移動することについて、坪川氏がどのように思われているのかと問いました。額縁に入れられた写真をよく見ると、背広左胸ポケット辺りの紙が破れ、右胸辺りは紙の表面がかすれているように見えます。修正されないままの写真を見つつ、今の新発田市の現状に胸を痛めていらっしゃるのではないかと推察しました。

2 6月議会を傍聴して思うこと

① 新発田市観光協会法人化について

2月議会において、新発田市観光協会が法人化されることが決まり、職員が増員されると共にしばたん観光バス運行などの事業が進められています。今年度はこの観光協会に約2千300万円の税金をあて、約765万円は国の補助金を利用する事になっていました。しかし、国がその補助金を認めなかった為、経済建設委員会において観光振興課から、その穴埋めの為の補正予算が計上されました。国の補助金を当てにして予算をたて、それが認められなかったとして補正予算を計上することに対して議員より質問ができました。観光振興課長が準備不足であったことを認めましたが、補正予算はそのまま委員全員の賛成で採択されました。今後も、採算が取れるか分からない観光事業を行う観光協会職員給与等、新発田市が負担する事になるのでしょうか。

② 街灯のLED化について

私の通信においても、街灯のLED化の必要性を述べていましたが、議員の一般質問のなかでも、治安が悪くなっている新発田市において、明るい街灯(防犯灯)を望む市民の声を伝えながら、LED化の必要性が述べられました。

三条市では、国の補助金を利用し、街灯1万4千500本ほぼ全部をLED化しました。年間コスト550万円が削減でき、削減分の費用を新たな街灯設置に当てる予定とのことでした。

当市では、平成25年度にLEDに交換したのは99灯のみです。国の補助金も三条市のように、計画をしっかりと立てた上で、箱物ではなく、市民生活に直結したものに使って欲しいものです。

③ 松塚漁港について

新発田市は松塚漁港を観光の一つとして考え港整備、施設整備、道路整備に税金を投じています。議員から漁港の年間計画についての質問ができました。週末に鮮魚市場として集客し、冬期は出漁できない為、加工品製造を行うとのことでした。松塚漁港では専業の漁師が居ないと聞いています。多くの税金を使うのですから、訪れた人を失望させない漁港になって欲しいものです。

④ 新発田ブランド認証制度について

新発田市の物産をブランド化し全国に販売しようとしています。しかし、実際には、ブランド化した商品を十分に供給する体制が取られていない事や販路不足など議員より指摘がありまし